サントリー BLACK BOSS
空とぶクジラ、実は人だった！映像技術で生まれた“新しい絵画”

権八成裕（シンガタ）＋辻川幸一郎

7月にオンエアされたサントリーのBLACK BOSSのCMが話題を集めている。空撮で撮影し、シンプルで余計なものをそぎ落とした前作「東京空撮」篇とは大きく方向性を変えた「空飛ぶクジラ」篇である。奇抜なアイデアやスケールの大きな映像美が生まれるまでのプロセスを、CMプランナーの権八成裕さんと演出家の辻川幸一郎さんから聞いた。

サントリー
BLACK BOSS
「空飛ぶクジラ」篇
<テレビCM 15秒／30秒>
http://www.suntory.co.jp/softdrink/boss/cm_press/index3.html

無機質な世界からの転換、その意図は？

モノトーンの画面に映し出されたのは、東京の上空を悠々と泳ぐ一頭の巨大なクジラ。そのクジラをよく見ると、スタイリッシュなブラックスーツに身を包み、気持ちよさそうに空を泳ぐビジネスマンから構成されている。東京の通勤風景のような窮屈な雰囲気はそこにはない。思い思いに新聞を広げたり、PCをいじったりしながら空中遊泳を楽しんでいる。突然クジラが潮を吹くように、ビジネスマンが次々と噴き出され、それぞれの職場に向かっていく——。そんな開放感あふれる斬新な映像を、90年代を代表する名作映画「TOTO LE HEROS（トト・ザ・ヒーロー）」の挿入歌「BOUM!（ブン）」（シャルル・トルネ作曲）の軽快なメロディが引き立てる。

これまでのBLACK BOSSのCMは、コーヒー豆だけを映し出した全編シズルものやモノクロの東京の空撮など、全く人が登場しない無機的な世界観で表現してきた。さらにテーマ曲は、映画「地下室のメロディ」の「バームツリー」というジャズの名曲を長年踏襲。なぜここで方向性を大きく転換したのだろうか。

「よくぞ、聞いてくれました。それはズバリ方向性を大きく転換したくなったからです。あ？その理由？はい。BLACK BOSSを担当して4年目ですが、これまでは競合商品や市場動向も意識しつつ、シンプルでややハードだが、都会的な洗練を目指して表現してきました。今回もマーケティングコンセプトはそのベクトル上にあります。つまり特に方向転換したつもりは…」とトボケる権八さん。

「ただ、まあ、ブラックコーヒーと言えばこんな感じ、という市場全体の従来の“ブラック表現の呪縛”のようなものはいったん全部取っ払って、見たことのない表現で、競合商品からも頭ひとつ抜けた存在を目指しました」と胸の内を語った。

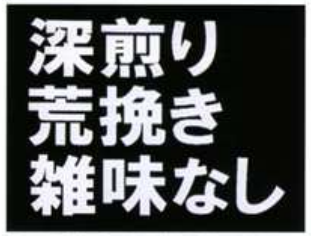
目指したのは、絵画的な新しい映像体験

権八さんの元々の着想はこうだ。「荒れた海から空へ向かって飛び出すクジラ。寄っていくと、実はそのクジラはカラスの集団でできていて、さらにそのカラスによると一羽一羽が蟻の大群でできている。その蟻に近づいてみると実は丸の内のビジネスマンの集団。その中の一人が見上げると東京の上空に冒頭のクジラが悠々と飛んでいる—という自然界と大都会のブラックのエネルギー循環みたいな。自分で言ってて難しいです（笑）」と権八さん。そのイメージのままクオリティ高く映像化するのは困難を窮めるのと、「仕上げてみたら、労多くして結果『だから何？』みたいになっても困るし。ただ『え！？』感というかいい意味での戸惑い感てのは、キライじゃないですけどね。このCMについても、ロジカルに積み上げた部分もありつつ、ある意味そういう理屈を超越する部分があったほうが実は強い。大きな声では言えませんが（笑）。監督とも何度も話し合って、表現内容とその方法論との両面からの検証を繰り返しました。そして、企画の途中をだいぶはしょってクジラ＝ビジネスマンのシンプルな構造で勝負することになりました」。

演出家は、これまで一緒に仕事をしたことはなかったものの、CMやミュージックビデオでも活躍する映像ディレクターの辻川幸一郎さんに依頼した。「辻川さんの、無機質なものに生命を吹き込むあの超ド級のセンスには目を見張るものがあります。今回は、そういう企画じゃないんだけど（笑）。でも、スケールのでかい見たことないもの作りたいという純粋なモチベーションでみんなチーム一丸となって、挑戦してくれました」と権八さん。制作にあたって「リアリティよりもゆったりとした絵画的な画作り、ある種のチャーミングさを重視する」というのが二人の共通認識だったという。

リアリティをあえて避けた演出

辻川さんは実写とCGを駆使してクジラをかたどった。CGは映画『ロード・オブ・ザ・リング 二つの塔』や『トロイ』などで導入され



NA：深煎り・荒挽き・雑味なし
BLACK BOSS

CD／浜上直、倉野謙介、佐々木宏○企画／権八成裕○PR／小松野保、村上輝樹○PM／吉山英介、横井秀夫○演出／辻川幸一郎○編集／喜屋武豊○照明／竹本幸司○美術／柳琴達夫○ST／阿部由美子○HM／李舞一○CAS／高久明子○特機／茅田光明、岡村宗幸○CRD／塩沢良介○空撮CRD／真山陽一○ポスプロダクション／イマジカ○編集／小林浩樹（オフライン）、宮岡重人（オンライン）○音楽／山田勝也○CGアニメーター／佐藤壮平